

大学評価により 大学基準「適合」と認定されました

大学の教育・研究の質の維持向上と改善を図る第三者機関、財団法人大学基準協会が行う「大学評価」により、金城学院大学は大学基準「適合」と認定されました。この結果をさらなる改革、改善に結び付けていきたいと考えています。

「大学評価(認証評価)」とは？

2002年の学校教育法改正に伴い、2004年度以降わが国の大学は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を7年以内の周期で受けることが義務づけられました(認証評価制度)。

財団法人大学基準協会は、その評価機関として日本で一番長い歴史を持ち、恣意的、独善的になりがちな大学の「自己点検・評価」活動を客観的に審査し、教育・研究の質を保証するための機関です。

大学評価では、「大学の特徴や立場を尊重しその改善・向上を促す」という観点に立って、各大学が掲げる理念・目的・教育目標の実現の状況や実現に向けた努力の状況などを、各大学の教育・研究を中心とした活動の諸側面について検証し、基準に適合しているかどうかを判定します。

「大学評価」申請までの取り組み

本学では、1994年に自己評価委員会を発足させ、本学独自の方法で自己点検・評価を行ってきました。その結果は、金城学院大学自己点検・評価報告書『WINDOWS』として1999年、2002年に公表しました。その後、2003年度には、大学基準協会に大学評価を申請し、「適合」との認定をいただきましたが、これは大学評価を大学に義務づける学校教育法改

正の施行以前の評価であったことから、今回再び大学評価に申請することにいたしました。

大きな理由としては、2009年に学院創立120周年・大学設立60周年を迎えるにあたり、10年、20年先の将来を見越した大学のグランドデザイン作成を視野に入れ、将来構想検討の出発点として、大学の現状の正確な点検・評価をいま一度行おうと考えたためです。

前回、2003年度の大学評価以降、「豊かな人間性と実践能力を兼ね備え、社会に貢献できる女性の育成」という建学の精神をどのように教育に生かしていくかを課題とし、「総合女子大学への発展」「企業との連携強化」「大学のブランド力強化と理念・

教育目標の具現化」の3つを運営方針に掲げ、大学運営を進めてきました。そして今回大学評価を受けることで、今後の指針としたいと考えたのです。

明日へのさらなる改革を目指して

今回、大学基準「適合」と認定されたということは、本学の教育・研究等の質が社会に対し保証されたということです。

しかし、この評価に甘んじることなく、これからもキリスト教に基づく人間教育・教養教育を堅持しつつ、東海地区随一の女性総合大学としてさらなる発展を目指します。



UNIVERSITY
ACCREDITED
2008. 4～2015. 3

〈認定マーク〉

評価結果をまとめた『金城学院大学点検・評価報告書 WINDOWS vol.4』は、大学ホームページ「情報公開等」からご覧いただけます。

金城学院大学「大学評価」の総評(抜粋)

自己点検・評価の体制

自己評価委員会が実質的に機能しており、7年に2度の頻度で点検・評価報告書を刊行すること、毎年各部署の活動報告をしていること、外部評価を導入し、そこで明らかになった問題点の改善努力に努めていることは評価できる。

教育課程

教養教育を11のテーマ(主題)に分類した授業科目群に編成した総合教育科目は、キリスト教教育科目と並んで、貴大学のキーワードである「いのち・こころ・いやし」を体現し、人間生活への洞察を深め、倫理性を培う教育の柱となっている。また、キャリア開発教育科目の開設を行うなど、全学あげての就職支援に関連する統合的なシステム構築をめざすプロジェクトについては、2006(平成18)年度の文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」にも選定されており、高く評価できる。

教育課程等

各学部・研究科の理念に沿ったカリキュラムがおおむね適切に整備されている。特に、日本語日本文化学科において、日本の伝統文化を実体験をとおして学ばせる体制が構築されている点、また、英語英米文化学科において英語運用能力の向上や国際社会への貢献に直接的に資する科目の実施など、段階的・実践的に学生の能力を高め、現場で社会に貢献できる人材育成を行っている点は、高く評価できる。

教育方法等

学生が履修しやすく、しかも4年間を見通した履修計画を立てられるように時間割のゾーン化と固定化が行われている。全学で実施している授業評価の結果は『VOX POP』(学生と教師をつなぐ授業改善レポート)という冊子にまとめられ、表面的な内容に終わることなく、授業改善に対する教員の側からの具体的な提案等もなされており、評価に値する。

社会貢献

多数の公開講座の開設、「大学コンソーシアムせと」や愛知学長懇話会への参加、また、心理臨床相談室の設置による発達に関する問題の助言と援助、図書館の地域開放や樹林地型自然ふれあいゾーンの開放など、大学の人的・物的財産を社会に向けて積極的に提供しており、広く社会に貢献していると判断できる。

施設・設備

学生用ロッカーが完全確保できている、部室、食堂、休憩室もよく整備され、キャンパス・アメニティの充実にも意を注いでいることがわかる。

図書・電子媒体等

図書・資料等の収集とその方針が明確であり、図書館運営委員会がよく機能している、計画的に整備が進められているものと評価できる。

学生生活

奨学金制度の整備、セクシュアル・ハラスメント防止対策とその取り組み、健康・心理相談体制、アドバイザー制度の導入、キャリア相談コーナーの開設など、学生の生活と学修環境が精緻に整備されている。

理念・目的・教育目標の達成への全学的な姿勢《全文》

貴大学は、1889(明治22)年、米国南長老派ミッションの宣教師A.E.ランドルフによって始められた金城女学校を前身とする。福音主義キリスト教に基づく、女性のための高等教育・専門教育を理念とし、長い伝統を誇る人間教育・教養教育を堅持するとともに、21世紀に入ってから実務能力涵養のための教育を取り入れる方針がとられ、実践的な英語教育の推進などにより、「情報処理能力の育成や職業を意識した実務能力の養成」を目指している。その実現に向け、2003(平成15)年度以降は、(1)総合女子大学への発展、(2)企業との連携強化、(3)大学のブランド力強化と理念・教育目標の具現化の3つを運営方針として掲げた上で、実務能力の養成を図る教育課程、時間割のゾーン化と固定化、資格取得支援、各種学生生活支援などの学生の視点に立った教育改革が誠実に遂行されている点は、貴大学の特色として評価できる。

2005(平成17)年度に本格的な理系学部である薬学部を設置したことにより、現在、5学部2研究科となった貴大学は、総合女子大学への発展の第1歩を踏み出したと言える。